

# 金岡新聞

1月号

## 日本ロマン飛行 (17)

### —世界遺産

### 石見銀山—

石見銀山遺跡は、2007年7月にアジア初の産業遺産として、ユネスコの世界遺産に登録された。

1526年に九州博多の豪商神屋寿禎（かみやじゅてい）によって発見されて以来、1923年の休山まで約400年にわたって採掘されてきた日本を代表する鉱山遺跡である。  
16〜17世紀の約100年間には、



冬の日本海と、海の幸もあわせて堪能してみては

### 1月生まれの有名人

- 1/2 古谷一行 72歳
- 1/6 チャゲ 57歳
- 1/9 岸部一徳 68歳
- 井上真央 28歳
- 1/11 浜口京子 37歳
- 1/13 大島美幸 35歳
- 1/14 玉木 宏 35歳
- 1/15 樹木希林 72歳
- 1/21 高田純次 68歳
- 1/25 櫻井 翔 33歳
- 1/26 長嶋一茂 49歳
- 1/31 香取慎吾 38歳

この石見銀山から大量の銀が採掘され、大内氏、尼子氏、毛利氏といった戦国大名の軍資金や、江戸幕府の財源として使われた。  
また石見銀山で生産された銀は高品質で、東アジア交易において最も信用が高く、銀山のある佐摩村（さまむら）にちなんで、ソーマ銀と呼ばれ流通した。  
17世紀前半の最盛期の産出量は、年間約1万貫（約38t）と推定され、世界の銀産出の約3分の1を占めていたといわれる、日本銀のかんりの部分を産出していたと考えられている。  
世界遺産に登録されるにあたっては、自然と共存する鉱山だった点が評価された。銀の製錬に大量の材木を消費する一方で、計画的に植林も進められたため、豊かな森林が現在も残っている。

### 脂質が少なくヘルシーに

### タンパク質が摂れる

### 『カワハギ』

ウロコがないかわりに皮が非常に堅くざらざらしており、皮をはいでから料理するところからカワハギの名前が付いた。  
昼に活動するが、夜は海藻などを口にくわえ、つかまって眠る習性がある。

口に水を含んで砂地に勢いよく吹きつけ、砂にもぐった生物を巻き上げて捕食する。殻におおわれたカニや貝類なども、頑丈な歯で殻を噛み砕いて食べてしまう。

カワハギの仲間には種類が多いが、食用となるのはカワハギとウマズラハギの2種だけである。皮が厚く死後も色の変化が少なく目利きの難しい魚である。目が澄んでいて、ヒレの先が乾燥していないものを選ぶのがポイント。

淡白でクセのない味なので、煮物、鍋、お吸い物など、料理の応用範囲が広い。他にも、天ぷら、フライ、ムニエルなどにしても美味しい。また、干物や肝の美味しさもよく知られている。

四季を通じてまずい時期がなく、フグやヒラメの端境期にあたる夏に代用されることがあるからか、子持ちの時期にあたるからか、夏が旬という説もあるが、肝が膨れる晩秋から冬にかけてが最もおいしい季節という意見も多い。



エチゼンクラゲを  
集団で襲うこともある



カワハギ（成熟したオス）